

事業所における自己評価結果(公表)

公表:令和 2年11月 1日

事業所名 児童発達支援センター ひばり園

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	8	0	・プレイルームや保育室などのスペースは適切であり、危険もないように配慮している。	・利用人数が多い時は、パーティションを使い部屋を区切るなどしている。
	2	職員の配置数は適切である	8	0	・職員数においては配置基準を満たしている。 ・通園人数が少ない時に、保育所等訪問支援等に行っている。	
	3	生活空間は、本人にわかりやすく構造化された環境になっている。また、障害の特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされている	8	0	・活動別に部屋を分けて、わかりやすく構造化している。 ・写真などの視覚支援を行い、情報伝達ができるように配慮している。	・視覚支援ツールの個別化が必要で、壁への設置の限界を感じ、対象児が通園するときのみ掲示している。
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっている。また、子ども達の活動に合わせた空間となっている	8	0	・給食室と保育室と分けており、活動に合わせた空間になっている。 ・環境整備も毎日行い、トイレも清潔であり、全体的に明るくきれいな環境である。 ・全体的に広く、トランポリンやスノーズレンもあり、色々な活動ができる環境である。	・清掃を毎日行いながら、加湿器の管理や遊具の破損などの点検を今まで通り行っていく。
業務改善	5	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	8	0	・働き方改革としてカイゼン提案運動を行い、メンタル面の安定や業務負担の軽減等の意見を出し合い推進している。	
	6	保護者等向け評価表により、保護者等に対して事業所の評価を実施するとともに、保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	8	0	・今年度は、保護者向けの満足度調査と児童発達支援保護者評価を実施した。 ・保護者から聞いた意見は職員間で話し合った後、保護者に回答し改善に取り組んでいる。	
	7	事業所向け自己評価表及び保護者向け評価表の結果を踏まえ、事業所として自己評価を行うとともに、その結果による支援の質の評価及び改善の内容を、事業所の会報やホームページ等で公開している	8	0	・児童発達ガイドラインの評価表を基に集計し、検討し掲示を行っている。 ・ホームページにおいても公表している。	
	8	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	8	0	・外部評価まで行っていないが、併行通園先等の関係機関が来所した際、評価等を頂いたり、アンケート等を記載してもらったりしている。	法人内の他部署職員が、新人職員研修として1日体験し、感想をもらっている。

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた 改善内容又は改善目標
	9	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	8	0	・法人全体で実施している研修会及びひばり園内で保育士研修会を月に一回行っている。 ・外部研修会は、コロナの関係で参加できにくいですが、今までの学んだ専門性を生かした勉強会を行っている。	
適切な支援の提供	10	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成している	8	0	・利用開始時にアセスメントを行い、子ども及び保護者のニーズに基づき現状把握をした上で、スモールステップの目標立てを行っている。	
	11	子どもの適応行動の状況を図るために、標準化されたアセスメントツールを使用している	8	0	・遠城寺式・乳幼児発達検査表等を使用し、一人ひとりの現段階をチェックしている。	
	12	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「発達支援(本人支援及び移行支援)」、「家族支援」、「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されている	8	0	・児童発達ガイドラインに沿って観察及び聞き取りの中より現状を記載し、3つの支援内容から必要な項目を選び、支援目標と支援内容を具体的に設定している。	
	13	児童発達支援計画に沿った支援が行われている	8	0	・児童発達支援計画に基づき、個別対応や集団での療育を行っている。	
	14	活動プログラムの立案をチームで行っている	8	0	・年齢別のグループに分けて年間計画を立てて実施している。 ・発達段階に応じた療育内容の統一を図るため、職員間で話し合い、月間計画も立てている。	
	15	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	8	0	・子どもの状態に応じて柔軟に対応できるようにしている。 ・経験年数を考えて、課題グループのローテーション等を行っている。	月間計画の沿って、活動を展開している。スモールステップで段階づけを行うようにしている。
	16	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成している	8	0	・1日のプログラムに即した基本的な生活習慣や保育場面での社会性や集団参加等の目標と支援内容を立案している。	
	17	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	8	0	・朝の職員会議の際に1日の流れや保育内容等について確認を行っている。 ・特に配慮が必要な子どもや保護者について情報共有をその都度行っている。	
	18	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気づいた点等を共有している	8	0	・支援終了後に、その日の振り返りを職員間で行っている。気づいた点、改善すべき点があれば互いに伝えあひ次の支援に繋げるよう努めている。	

	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた 改善内容又は改善目標
	19 日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	8	0	・日々、療育の記録を記入し、子どもの変化等気づけるようにしている。	
	20 定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断している	8	0	・6か月以内にモニタリングを行い、会議の際に職員同士で意見を出し合い行っている。	
関係機関や保護者との連携関係機関や保護者との連携	21 障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	8	0	・会議には、児童発達支援管理責任者が主に参画し、担当者も参加することがある。	
	22 母子保健や子ども・子育て支援等の関係者や関係機関と連携した支援を行っている	8	0	・入園時やサービス担当者会議、ケース検討会などで情報交換している。	
	23 (医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合) 地域の保健、医療、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携した支援を行っている	8	0	・児童発達支援計画書作成時に、他の事業所を利用している場合は、情報共有を行っている。 ・就園就学時に、特別支援学校へ情報を伝え、学校より教諭も来園するなどして連携を行っている。	
	24 (医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合) 子どもの主治医や協力医療機関等と連絡体制を整えている	8	0	・同法人の医療・リハビリテーション課との情報共有を行い、個別支援計画に反映している。	
	25 移行支援として、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	8	0	・保育所等訪問や施設支援、巡回整備事業を行い、情報共有と連携を行っている。	
	26 移行支援として、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	8	0	・情報提供書や保育要録などを作成し、書面で情報提供を行っている。 ・必要なケースは、特別支援学校の教諭が、直接来園し情報共有を行っている。	
	27 他の児童発達支援センターや児童発達支援事業所、発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	8	0	・併行事業所と連携し、支援内容の共有と連携を行っている。 ・発達障害者支援センターが主催する研修等に参加し研鑽に努めている。	・研修会を企画・運営していたが、今年度はコロナの関係で、行えなかった。
28 保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、障害のない子どもと活動する機会がある	8	0	・昨年度より交流保育として、地域の保育園に希望者が外向き、活動に参加した。		
29 (自立支援)協議会子ども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加している	7	1	・地域の自立支援協議会の子ども部会のみ参加している。		

	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
	30 日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	8	0	・保護者通園であるので、家庭での様子も含めて保護者とは日頃からコミュニケーションを図り、変化点を伝える等共通理解を図っている。 ・年長単独は、必要な利用者のみ連絡ノートにて報告している。	
	31 保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)の支援を行っている	8	0	・年に3回保護者講座にてペアレント・トレーニングのエキスを伝えている。 ・年長の希望保護者に、10セッションのペアレント・トレーニングを行った。 ・年中の希望保護者にペアレント・プログラムを行った。	・昨年度同様、ペアレント・プログラム及びペアレント・トレーニングには力を入れ、保護者に子どもの支援方法を伝えることが出来るようにしていきたい。
保護者への説明責任等	32 運営規程、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	8	0	・重要事項説明書と契約書の説明及び必要経費についての説明を確実に行うようにしているため、運営規程のみの説明は行っていない。	
	33 児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ている	8	0	・児童発達支援ガイドラインに基づき、全体の発達支援の目標を掲げ、個別적으로는6か月以内に1回、児童発達支援計画書を示しながら、内容を説明し同意を得ている。	
	34 定期的に、保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	8	0	・保護者も一緒に通園しているため、いつでも相談できる環境であり、個別相談も多く行っている。	
	35 父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	8	0	・月に1回1時間程度親の会を開催し、保護者同士の話し合いの場を年間計画に組み込んでいる。	
	36 子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応している	8	0	・親の会から出た意見については、職員間で話し合い、その結果を保護者に伝えている。 ・個別の相談については、面談や電話相談など迅速に対応している。	
37 定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	8	0	・園だよりを月に1回発行し、行事予定等の情報伝達を行っている。		

	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた 改善内容又は改善目標
	38 個人情報の取扱いに十分注意している	8	0	・保護者から個人情報の同意を得て使用に際しては注意している。 ・文書の廃棄はシュレッダーを使用している。 ・他の保護者も通園しているので、個人情報について説明し、SNS等の掲示を行わないよう注意喚起している。	
	39 障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	8	0	・子どもの特性に応じたコミュニケーションツールを保護者と話し合い行っている。 ・保護者へ視覚的な情報も含めた情報や報告等を細かに行っている。	
	40 事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	8	0	・法人全体で夏祭りや秋祭り等季節のイベントを行っていた。	コロナの関係で今年度は中止となった。
非常時等の対応	41 緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や保護者に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施している	8	0	・緊急時対応マニュアル・感染症マニュアルは整備している。 ・昨年度より防犯マニュアルを整備した。 ・保護者には、年度当初オリエンテーションの時に周知説明を行った。 ・発生を想定した訓練の実施を検討している。	
	42 非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	8	0	・毎月1回避難訓練を実施している。	
	43 事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認している	8	0	・アセスメントやモニタリング時に保護者に確認し、個別支援計画に記載している。	
	44 食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	8	0	・医師の指示書に基づき、給食担当と連携し対応している。	
	45 ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	8	0	・法人全体でインシデントとして共有している。	
	46 虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	8	0	・法人全体とひばり園内でも行っている。	
	47 どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載している	8	0	・保護者通園が主で、身体拘束対象となりうる事例はない。個別支援計画書に記載欄は設けている。	

○この「事業所における自己評価結果(公表)」は事業所全体で行った自己評価です。